

ASAP

Asia School Attendance Partnership

あきる野多摩川学園カンボジア校

カンボジア通信

NPO 法人アジアの子ども達の就学を支援する会 (ASAP)



絵具とクレヨンで描いた絵が完成!!

2012.4

- 第15回視察訪問・悲しいお知らせ
長谷川 理事長…P1
- コールタメイ村、いよいよ工事着工…P2
- タットム、トロク校の様子…P3～4
- 子ども達との交流支援…P5～6
- 支援ツアーに参加して …P7
- 記念寄贈で想いを残しませんか…P8
- Mother to Mother 報告…P9
- カンボジア写真展を開きました…P10
- 現地サポーター現れる！…P10

Vol. 9

第15回視察訪問の報告

理事長 長谷川 安年

平成24年2月29日～3月5日にかけて、第15回支援ツアーを理事4名他10名総勢14名で実施いたしました。学生達、遠方名古屋から参加してくれた会員、外国国籍の方など幅広いメンバーとなり、充実した支援活動を行い無事終了致しました。

小学校のない「コルタメイ村」への小学校寄贈を決定したのは昨年8月です。今まで支援してきた学校では、村民が、村の学校として自ら運営していこうという感覚があまり見受けられず、その意識改善の難しさを感じていることから、校舎を寄贈する条件として、「建築予定地を村民が力を合わせて整備できたら」と申しました所、24年2月、「柵が出来た」との連絡が入り、直ちに校舎建築工事着工となりました。今回の訪問目的は現状を確認し、学校関係者と今後の事の話合いをする事でした。

現地に着き我々が目にしたのは、木々の生い茂っていた土地が開墾され、木の柵でしっかりと囲われた「学校の土地」でした。村民がそれぞれ出来る範囲で材料を持ち寄って作業を行ったといいますが、大変な作業であった事は明白でした。コルタメイ村の方達の教育に対する前向きな姿に強く感動しました。これだけの力がある村です。建築後「自分達の学校」としての運営も十分期待できます。我々の到着を迎えてくれた、群長、教育長、村長、校長、学校運営委員（村の父兄代表）の方々と、建築後の様々な問題を話し合う事も出来ました。

第2、3日目に訪問したタットム、トロク小学校では、参加の皆さんが体当たりで子ども達と交流を行いました。これからの世の中を担う若者達に、発展途上の国を体感してもらい、村民や子ども達と交流する機会を提供できるのはNPOとして嬉しい事であります。

悲しいお知らせ

前副理事長の池田五郎さんが、誠に残念ながら去る2月17日にご病気の為逝去されました。

故池田さんは、私がカンボジアに小学校を寄贈したいと思った時から実現に向けてご尽力下さり、カンボジアからの留学生の学生には日本のお父さんの様に慕われていた方です。

ASAPの支援活動には欠く事の出来ない大切な方でした。私を初め理事一同池田さんの意志を継いで、ASAPの活動がより充実し子ども達の教育に貢献出来る様誓います。安らかにご永眠下さい。合掌。



トロク小の子ども達に囲まれる故池田氏

昨年10月～現在までの支援活動、及び訪問の詳細をご報告させていただきます。

コールタメイ村、学校に向けて第一歩！



開墾中の昨年8月



工事が進む現在。村人も工事に雇われています

学校がない村に、学校ができる！

開墾された土地、たくさん集まった村民達からは、期待と喜びが伝わってきます。2月末に着工した工事で、まずトイレと井戸が姿を現しました！あの、木々の生えたジャングル状態の土地にトイレと井戸が建って、学校への一歩が始まったと思うと、胸にあふれてくる物がありました。ご支援頂いている皆様全員をあの村にお連れしたい気持ちでいっぱいです。

予定地には群長、村長、教育長、校長、そして大勢の村の人たちが集まっており、群長さんは、「遠くの日本からこうやって訪問までして支援をしてくれることに、感謝の気持ちで言葉がない」というお礼を述べられながら、**男泣きをされていました。**

校舎完成は6月初旬、8月末実施予定の16回支援ツアーで落成式を行う予定です。
(ぜひご一緒しませんか?)



青空教室の下での話し合いの様子



炎天下、ツアー参加者に集まる子ども達

トロク小学校の様子

今回の訪問では、今回から、個人から学校へ一部移行した教育支援金がきちんと役目を果たしているかを確認するのもひとつの目的でした。

政府から支給される学校運営費は年間一人当たり 1.5 ドルの 550 ドルのみ。いつも予算がないと言っていた先生達は、月 60 ドル (10 ドル×6 人分) を何に充てるのでしょうか。

待ち受けていたのは予想外の報告でした。職員室の床をタイル張りにしたというのです！思わず「えっ！！なんで職員室？子ども達の為に必要な物はないの？？」と怒りたいところを、「先生達が会議で決めた事を頭ごなしに否定してしまってはいけない」という思いで、ぐっと飲み込み、「なぜ」と聞きました。答えは「いつも使うところだから」…！

日本人の私たちにとっては全く理解できない理由ですが、言われてみれば、確かにカンボジアのどの学校も、子どもの教室が椰子の葉でも、職員室だけはコンクリート造りが多いのです。職員室は特別な物なのかもしれません。日本人には理解しかねることも受け入れていくことも時には必要となります。

その代わり、トロク小の未就学率は今年もゼロです。(今回訪問した他の小学校は 20～30%の未就学率でした) また、5年から6年時の中退者は2人のみ。卒業した40人の子どもは全員が中学校に進学しました。明らかに全体の教育水準は他の村に比べて向上しています。先生たちも努力をして下さっている結果でしょう。「子ども達の教育の為に」ASAP が支援していることはきちんと伝わっています。支援者の皆様、教育支援金の用途の様子はもう少し見守らせてください！

タットム小学校の様子

トイレに石鹸が！！

8月に寄贈したスーパー井戸はどうなっているでしょうか。先生達からは「とても助かっている」と報告をうけ、管理はきちんとされ、水道機能はちゃんと働いているようでした。なんととっても嬉しかったのは、スーパー井戸誕生よりトイレまで水が引けた事で、トイレに「石鹸」が置いてあったことです！

今まで沢山の学校を視察しましたが、学校で石鹸を見たのは、タットムが初めてです！

スーパー井戸は、「子どもの衛生教育のための寄贈」という意図をきちんと実践に移してくれています。トイレの後（紙がないので、手で用を足します）手を洗う習慣が身についたらこれはとてもすごいことです！！嬉しいです！**スーパー井戸万歳！**

スーパー井戸から引いた水



新校舎整備と教育支援金

教育支援金を使って、昨年8月に完成した新校舎の整備が進んでいました。国からの予算では手の出ない「国語の表」や「理科らしきポスター」などが貼られ、壁には個人用のファイルがきれいに並んでいました。また、図書支援を行っている「Room to Read」というアメリカの大きな団体から図書整備の支援を受けることになり、図書室の床をタイルにし、窓に格子をつけなければならないという条件をクリアする為に、教育支援金を活用してもらったという報告を受けました。図書室整備の支援を受けることが出来、とてもきれいに整えられた教室、皆様の支援金がこんな形でも確かに役立っています。



かなりきれいに整えられている教室

教育所長と繰り広げられたバトル!?

タットムの旧校舎が、シロアリ被害と老朽化の為に立ち入り禁止になってからもう数年たつというのに、まだ取り壊しが終了していません。その理由は、村の教育所長が、タットム小の校長が提出した書類を自分が紛失してしまった為に、色々難癖をつけて取り壊しを阻止していたためでした。教育所長の認可がなくては取り壊しが出来ません。旧校舎が校庭の中心にあるため生徒は満足に校庭で遊ぶことも出来ません。なぜ教育所長が難癖をつけるのが理解できないのですが、何とかして取り壊してもらうしかありません。そのために最終日教育所長と学校で面会しました。ところが会ったときからすでに不機嫌そのもの!!話し合ううちに怒鳴り出して、ついには「帰る!」と外に飛び出してしまうほど!!なぜ?どうして?

全く分かりませんが、このまま日本に帰るわけにも行きません。まるでかんしゃくを起こして手のつけられなくなった子どもを落ち着かせる様に、話しかけ、なだめて、笑いかけ…奇跡的に所長さんの気持ちが落ち着き、最後にはどうにか和解できて、取り壊しを承諾してくれました。最後まで良くわからない出来事でした。

(しかし疲れた出来事でした…)

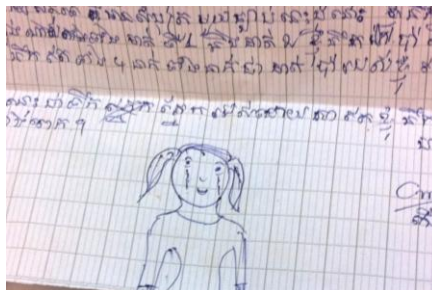


柱姿の旧タットム校舎。これで見納めと願います!

子ども達との交流支援

現在小学校の先生となる年代を育てる世代がポルポト政権によりほとんど殺されてしまったカンボジアでは、小学校の先生自身が、音楽、体育、絵画制作など教育を受けてこなかったため、今先生になっても子ども達にこういった指導を行うことがほとんどできません。先生達や子ども達に少しでも豊かな経験を積んでもらえればと思い、訪問時には子ども達といろいろな活動を楽しんでいます。

2日間の交流後、子ども達から思いもがけず手紙をもらって学生達は涙涙のお別れでした。



子どもからの手紙



音楽で遊ぼう

音楽の講師をされている方が参加されたので、音楽遊びを計画しました。最初に立ち上がったのは校庭でどうやって大きな音楽を流したらいいか？です。ピアノは勿論なく、ポータブルスピーカーやオルガンは電源がない…。普段している音楽活動が、いかに電気や道具に頼ったものだったのかと思い知らされました。結局ピアノを5台用意して、参加学生に猛練習してもらうことに…。

「どうなるのか…」という不安をよそに、バッハやベートーヴェンなどのハーモニー演奏に耳を澄ませてもらい、音楽遊び、フォークダンス（ジェンカ）等は本当に楽しんでもらえました。しかし、真冬の日本から猛暑の中に立った私達の体はさすがに根を上げ、「次は何？何？」というようなキラキラと食いついてくる瞳に十分に答えられなかったのも事実でした。あの子ども達の「もっとやって！」という気持ちに答え、いつかまた音楽を楽しみたいです。



バスの中でも練習を重ねて頑張りました！



ピアノに合わせて「ジェンカ」のフォークダンス



絵具でネームプレート制作!

毎年トロク、タットム小学校6年生に贈る卒業アルバム用の個人写真用に、写真の様な、絵具で制作したネームプレートを制作しました。

「三原色から紫・オレンジ・緑を実際に作る経験はあるのだろうか?」という思いから、赤青黄色の絵具を使い、子ども達の前で一緒に考えながら色作りをして見せたところ、子ども達は拍手喝さい! 重たい絵の具を持って行って良かった! と思った瞬間でした。

通訳の方が、「小さいときは大切な紙に絵を描くと言われて育ちました」というように、子ども達は大きな白い紙に自由に絵を描く体験もあまりないのでしょうか。何を書いたらいいのか考え込み描けない子も少なくありませんでした。『自由に絵を描く楽しさ』を子ども達に今後も経験させる機会をもてればと思います。



絵具と筆は(株)桃源堂様から寄付頂きました



自分の名前を書いて絵具で色を付けました



音楽で遊ぼう

今回2名の外国の方が参加される事を学校に伝えたところ、英語をぜひ子ども達におねがいたいという要望があり、英語遊びを計画しました。英語のカードや歌などで楽しみました。



カードを使って英語のレッスン!



ピアノに合わせて英語の歌で遊びます

支援ツアーに参加して

◆山田 みの理さん（動画撮影の為に名古屋から参加）

「カンボジアの人々の温かさを感じることができた旅だったな」そう帰りの飛行機で思えた旅でした。

朝日新聞の記事で Mother to Mother の活動を知ってから、一年もたたないうちに、その記事に載っていたカンボジアのお母さん方にお会いすることができた事を私はとても嬉しく思っています。

私たちを迎えてくれる時の子どもたちの純真な笑顔、学ぶ時の真剣な眼差し...そして自分が製作したものに対するコメントや修正点を熱心に聴くお母さん方の姿は、普段名古屋の IT 企業で働いている時には到底出会えない光景で溢れていました。

Mother to Mother のお母さん方にお会いして、こうしたやる気に満ちている方々をぜひもっと応援したい、そのためにはどんな仕組みがあればよいだろうかと考えています。一方的な援助ではなく、ビジネスという視点で持続可能な支援ができる仕組みを確立させたい、そんな私の「第一歩」になってくれたこの旅に参加でき、機会を与えてくださった ASAP メンバーの皆さんにとっても感謝しています。



暑い中カメラを抱えて走り回ってくれました（右）

◆友野 愛麻さん（実践女子短大 学生）

私は今回初めての海外でカンボジアに行かせて頂きました！小学校に着くと、子ども達皆が並んで拍手で迎えてくれました。今回 6 年生の卒業アルバムを作るためのネームプレートを作るお手伝いをさせて頂きました。最初は、「この色と



この色が混ざると何の色ができるか」クイズをし、実際に目の前で作ってみると子ども達は初めて見る為か大喜びしていました！子供たちは絵を自由に書く経験が少ないためか、皆の真似や見本の真似をしていたのですが、その中にもそれぞれみんな個性があり、とてもきれいな絵で絵の才能がありそうな子もたくさんいました。絵に関してだけではなく、いろんな才能を持った子がカンボジアに溢れているんじゃないかな...と感じました。その才能を発揮する場を作っている ASAP の皆さんの支援はとても素晴らしいものだと思います。

歩いているときも座っているときもずっと腕を組んでくれたり、リュックの肩紐が下がっていたら上げてくれたり、私が持っていたピアノカを代わって持ってくれたり、立っていたら椅子を持ってきてくれたり、絵本を読んでもくれたり、本当に暖かい子供たちばかりでした。そして、子供たちから手紙まで頂きました。子供たちに楽しんでもらうために行ったはずが、逆にたくさんの感動と暖かい気持ちをもたらしてしまいました。

自分にできることは少ないけれど、また行って私が今回子供たちからもらった分まで、感動を届けたいです！！初めて行った海外でこんな経験をさせて頂けて本当に ASAP の方々には感謝の気持ちでいっぱいです！本当にありがとうございました！

記念寄贈で想いを残しませんか？

喜寿、金婚式、などの人生の折々の記念に何かしたい、
とお考えの方、カンボジアの子どもたちの為に大きく貢献できる
「記念寄贈」はいかがでしょうか？

寄贈物には、プレートに寄贈者のお名前が入りますので、末永く寄贈の想いが刻まれます。大変貴重な記念となるのではないのでしょうか。尚、認定NPO法人となった場合、税金の優遇が受けられます。(現在手続き中です)



スーパー井戸につけられたプレート

… 寄贈例 …

◆トロク小学校◆

スーパー井戸…今まで小さな井戸の修理を繰り返してきましたが、今また壊れてしまいました。タットム小学校のようなスーパー井戸を建てられたらと思います。一基25～30万

◆コールタメイ小学校◆

寄宿舎 20～30キロ遠くから通勤する先生達の為のために。先生がいれば、夜も子どもたちが勉強に通ってくると思います。25～30万円(木造)

スーパー井戸 25～30万。現在建築中ですが、寄贈する事ができます。

◆その他学校のさまざまな設備

子どもの机と椅子 校庭のベンチ&机セット
図書設備 校庭の遊具

◆太陽発電機◆

ほんの僅かですが、外国の支援ですでに設置している学校もありますが、一基数十萬かかる為、ASAPでは校舎建設などを優先しています。太陽がさんさんと輝くカンボジアでこれほど活躍する物はないと思いますが、普及にはまだまだ時間がかかるでしょう。

◆校舎寄贈◆

シェムリアップから1時間も車を走らせると、教室が足りずに椰子の葉の校舎が立ち並ぶ学校がたくさんあります。校舎は4教室400万円位で寄贈することが出来ます。

注) 費用は為替や物価上昇により変わります

寄贈後はASAPが経過を見守りますので、ご安心して寄贈して頂けます。「〇〇を寄贈したい」とお考えの方がいらっしゃいましたら、ASAPまでご相談下さい

Mother to Mother 報告

海外に物を郵送するというのは、なんと費用がかかることでしょうか！
その為支援ツアーでは、参加者の皆さんに M to M の材料を大量に運んでもらっています。
今回は特に、カンボジアの子どもたちの通学かばんを作るプロジェクトの布も大量に運んだ
ので、重量オーバーにならないかドキドキしながらの搭乗手続きでした！
苦労も多いのですが、リュックを背負った子どもたちを想像すると今からワクワクします。

さて、仕事場となっているヌウ先生の庭先では、新しく参加したトロク小のお母さん 10
人も加わって 20 人のおかあさん達が私たちを出迎えてくれました。



現地に滞在出来ないの、作り方の打ち合わせが出来るのは訪問時だけ。いつも不安いっぱいです。

日本から持参したおせんべいやチョコレートをつまみながら少し雑談タイム。お母さんたちから「日本で本当に売れているのですか？」と何度も聞かれるなど、自分たちの作ったものが本当に売れているのかを、とても気にしていました。「売れているからこうやって次の仕事を持ってこられているのよ！」と話す、本当に嬉しそうでした。

学校の先生の月給が 50 \$ の中、年間の買取額が一人平均 150 ドルほどになるこの

仕事は、お母さんたちの貴重な収入源になっています。カンボジアの村は皆子沢山です。(戦後の日本のようです) お母さんの中には、10 人の子どもがいる家庭もありました！収入源は農業だけという村で、子ども達の就学費用に M to M が役立っている事は間違いありません！！

こういった支援活動はなんと言っても「継続される」ことが大切ですが、「継続する」ことが実は一番難しいのも事実です。継続には、「品物を安定して販売できる事」が必須です。今後も丁寧にしっかりと品物を作っていけるように、カンボジアのお母さんたちと心をつなげて頑張り参りますので、どうぞお知り合いへのプレゼントに、あるいは販売場所の情報提供などご協力等の応援をお願いします！

新に3つの園にご協力頂き、計16園になりました！

お知り合いの園を紹介して下さったり、敬老会、卒園記念、クリスマスのプレゼントへのご利用、サッカーボール袋、防災ずきん袋などの特注品の注文を下された園の皆様ご協力本当に有難うございました。(ネットショップ) <http://mothertomother.cart.fc2.com/>

昭島松原保育園 昭島ゆりかご保育園 あすなろ保育園 あすま保育園 大阪麦の穂保育園
康保会保育園 さくら木保育園 至誠第2保育園 多摩川幼稚園 多摩平幼稚園 天徳幼稚園 (金沢)
常盤が丘幼稚園 光の子保育園 (京都) 明照幼稚園 (葉山) みそら幼稚園 (兵庫) 若竹保育園 (50 音順)

カンボジア写真展を 開きました

去る2月4、5日に多摩川幼稚園で行われた作品展で、渡辺新さん（ASAP 会員）がカンボジアで写された子ども達の写真を展示いたしました。

写真がご趣味の渡辺さんは、今まで2度トロク、タットム校を訪れて子どもたちや生活の様子をカメラに収めていらっしゃいました。写真の子ども達があまりに生き生きとし素敵だったので、ぜひ作品展でとお願いし実現しました。遠方の会員の皆様にも何かの形でご紹介できたらと思います！



現地滞在サポーター現れる！

前記写真展の渡辺新さんが、なんと一年間カンボジアに滞在されることになり、滞在中ASAPの現地サポーターとして、何かお役に立てることはないかとご相談を受けました。

年2回の支援ツアーは、長くても3日間の学校滞在です。『夜明けから始まる朝の給食』『一日の学校の流れ』『村の生活』など、詳細を知りたくても出来ないもどかしさをずっと抱えてきたASAPとしては、願ったりかなったりのお申し出でした。

若きパワーあふれる渡辺さんがサポーターとして思う存分活躍して頂けるよう、ASAPとしてもバックアップ体制を整え応援していきたいと思えます。

ブログ等を通して皆様にも『旬』のニュースをお届け出来たら最高と考えます。

認定NPOに向けて

カンボジア通信 8 でもお伝えしましたが現在認定NPOに向けての手続きを進めています。複数の書類提出が必要な為、現在順を追って手続きを進めていますが現時点ではまだ認定されていません。進行状況は順次ご報告致します。

..... 編集後記

M to M のお母さんのご自宅を見せてもらいました。

学生の一人が「どこで生活しているのですか？え！ここで…」と思わず絶句していたように、何もないがらんとした家の中の様子は、今まで何度か先生や校長先生のお宅を拝見してきた私にもショックでした。今思い返してもお米の袋以外なものも浮かぶものはありません。

そのような中、お母さんが米袋を指さし、「今年は豊作だったのよ！！」と嬉しそうに話してくれ、一緒に手を取り合って喜んだことが頭から離れません。

何もないカンボジアの村と物に溢れる日本の生活。便利なのは明らかに日本でしょうが、カンボジアの村の生活が不幸なのかとは絶対に思えません。(衛生や就学問題は大きな問題ですが)カンボジアを訪問すると、発展とは、幸せとは…といつも考えさせられます。 (編集 副理事長 大沼 陽子)

支援金寄付について

ご寄付頂く会費又は支援金は下記口座に振り込みをお願いします。

- * 正会員… 年 20,000 円
- * 賛助会員… 毎月 1,000 円 (年額 12,000 円)
- * その他支援金… 金額を問わず随時受け付けております



■郵便振替口座 00130-2-594647

『NPOアジアの子供たちの就学を支援する会』

■西武信用金庫 秋川支店 033

普通口座 1292601

口座名 『NPO 法人アジアの子どもたちの就学を支援する会
理事長 長谷川 安年 (ハセガワ ヤストシ)』

あきる野多摩川学園カンボジア校通信

ASAP 会報 Vol.9 2012.4

■発行 ※NPO 法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会
(省略 “ASAP” Asia School Attendance Partnership)

〒197-0825 東京都あきる野市雨間 429 番地

TEL 042-558-0218 (多摩川幼稚園内)

FAX 042-550-2467

メールアドレス asap@tamagawa-kids.jp

ホームページ <http://www.tamagawa-kids.jp/asap/>

■発行人 長谷川 安年